

正太寺通信

第7号

主 張

「お仏壇は、本堂です」

世間一般では、お身内のどなたかが亡くなるとまず準備するのがお仏壇、というイメージを持っていると思います。

でもお仏壇は、そうなる前に用意しても良いのです。仏教徒にとって、信仰生活に欠かせない大切な物だからです。

お仏壇とは、お寺で言えば本堂に当たります。お寺の本堂がご家庭にあると思ってください。最上段中央には、曹洞宗のご本尊、お釈迦様の像をおまつりします。お釈迦様をおまつりするのための場所が、お仏壇だと考えてください。最近お仏壇を買われた方には、お釈迦様の左右に大本山永平寺御開山道元禪師様、大本山總持寺御開山瑩山禪師様の軸をおまつりされる方も多いですね。我が曹洞宗

にとって大変に大切な方々です。お釈迦様と一緒ににおまつりいただくのは、とてもありがたいことです。

そして、ご本尊様であるお釈迦様に向かってお祈りをし、読経などの修行をするのです。日々の信仰生活の報告もしてください。お釈迦様の教えを守って暮らします、とお誓いをして、それが守れたかどうかを報告するのです。

仏教徒にとって、もつとも身近な心の拠り所、それがお仏壇です。

ご先祖様も仏様ですから、お釈迦様のいらっしやるお仏壇に、一緒におまつりをさせていただきます。お釈迦様のおそばから、我々子孫を見守っていただくのです。

お仏壇は、信仰に目覚めたときに用意するべきです。お仏壇と言っても、最初に用意するのは高価な物

でなくても大丈夫です。最低必要な物は、お釈迦様の像と、ご飯などをお供えする器です。普通のお茶碗でも構いません。ただ、お釈迦様専用にしませう。お花を供える際は、お手持ちの花瓶に生けて構いません。ろうそくを立てる燭台と、線香を立てる香炉があれば、万全です。いずれも仏具屋さんで揃えられます(万一、店頭にある仏壇を勧められて困ったら、この正太寺通信を見せてみましょう)。そして、これらが全て乗る机や台を用意して、おまつりします。

そうして、朝夕に線香を一本立て、お釈迦様に向かって手を合わせ、何でも良いのでお経を読む。お勧めは、般若心経か修証義です。修証義は長いので、一章ずつ日替わりで読むと良いです。これらをまず日課にすることが、信仰生活の最初のとっかかりです。

難しいことではありません。時間を作り出すのが一番難しいと思いますが、そこを乗り越えて、手を合わ

せる時間を作り出してください。毎日同じ事の繰り返しをしてお参りをするわけですが、きつとそれが、日々の生活を活気のある物に変えてくれることでしよう。一に信心、二に信心、です。

お 知 ら せ

◎この秋、浜松の青年僧侶が中心となり、檀信徒の皆様へ向けて企画された講演会が開かれます。「あの頃に帰ろう、豊かな心を未来へ」をテーマに、タレントの島田洋七氏を迎えて「佐賀のがばいばあちゃん」を講演いただき、アーティスト富岡ヤスヤ氏のエレク

トーンで「音楽の街、浜松」をアピールします。正太寺にてチケット申込用紙を配布していますので、どうぞお求めください。先着順です。
とき 十一月十五日(日)
十三時開会
場 所 グランドホテル浜松
入場料 千円
×切り 八月三十一日

◎今年も静岡県第四宗務所主催の檀信徒研修会が開催されます。一昨年の永平寺、昨年の總持寺に続き、今年は鹿児島へと向かいます。飛行機を利用するため例年よりも参加費が高くなっておりますが、その分、研修内容にも力を入れております。

副住職も宗務所職員として同行をいたしますので、是非ご一緒に研修いたしましょう。
とき 十月二十二日、二十四日
×切り 第一次×切りは過ぎ、最終×切りが八月下旬となっております。お急ぎください。

※お断り 発行をお盆に間に合わせるため、連載「葬儀つて」はお休みしました。ごめんなさい！
発行人 曹洞宗宇津山正太寺
住職 穴水春男
編集人 副住職 穴水正哲
静岡県湖西市入出八〇〇番地
電話〇五三二五七八一〇〇四九
<http://www.shotaiji.or.jp/>
info@shotaiji.or.jp